

2018/08/31

第4期（2018-19年度）幹事会

第3回会議議事録（作成者：近藤和都）

出席者（敬称略）：岩崎、辛島、川端、近藤、田中、藤田、村田、毛利

(1) 総務・会計委員会より

- i. 藤田幹事より、新規入会希望者にかんする報告があった。新規入会希望者の入会を認めるかどうかの審議が行われ、全員の入会が承認された。
- ii. 近藤幹事より、学会 HP の現状および問題点にかんする下記の報告が行われ、各問題点について議論がなされた。
 - 日本語・英語サイト共に会則・規則集の改訂作業が行われていない。
→英語版については年内をめどに HP 上にアップロードする。関係者に翻訳依頼を行う。翻訳料を今後計上することが承認された。
 - 前期幹事会より「委員会制」が導入されたが、幹事以外の「委員」を掲載する箇所がない。
→「幹事」一覧の下部に「委員」の欄を設けることになった。
 - 各カルタイ HP へのリンク集が、2017 年大会@早稲田大学以降更新されていない。
→2017 年度以降、大会 HP と学会 HP は重なるようになっている。大会 HP をアーカイブするようにつとめ、今後はアーカイブされたアドレスや、大会パンフレットの PDF をリンクすることになった。
 - 学会誌の情報更新が 4 号以降行われていない。
→編集委員会の有元幹事と相談しながら、少なくとも目次情報については速やかにアップロードすることになった。
 - 入会案内・年会費に関するフォーマットが会員名簿の運用実態・選挙と合わせたものになっていない。
→会員管理の外注を含め、検討することになった。
 - 若手研究会のカテゴリーがない。
→HP に「イベント情報」のカテゴリーを設けることになった。
 - HP の管理を今後どのように行っていくか。
→簡単な情報のアップロードなどは、各担当幹事が行えるようになったほうが良いと確認された。そこで、HP に関するセキュリティ情報を幹事会のなかで共有することが決定された。

(2) 研究企画委員会より

川端幹事より、若手研究会の計画について下記の報告がなされた。

- 年に2回、東京と関西で若手研究会を行う。
- 前期までは東京で2回行われたが、関西での研究会は開催できなかった。そこで次回はず、関西での開催を目指したい。日程は下記を予定している。
若手研究会@関西：12月8日（会場は関西大学梅田キャンパス→村田幹事の提供）
若手研究会@東京：3月もしくは4月（会場は未定。候補として慶應）
- 若手研究会@関西の公募は10月中旬をめどに締めきり、そこからコメンテーターの依頼を行っていく。なお、今期は若手研究会に3万円の予算が付けられている。

(3) 大会委員会より

カルタイ 2019@慶應の準備状況について毛利幹事より下記の報告が行われ、各テーマについて議論がなされた。

- 8月23日に近藤幹事・田中幹事・毛利幹事の3人で慶應技術大学三田キャンパスにうかがい、慶應側の実行委員である岡原氏・塩原氏・近森氏と会合をもった。
 - 大会開催日程について議論を行い、2019年6月1日2日（土・日）が最適な日程であることが確認された。
→幹事会で正式に承認された。
 - 会場候補となる校舎に案内いただいた。予約可能な教室数には限りがあるものの、大会を運営するにあたっては十分な教室数が確保できることが確認された。
→教室数が足りなくなった場合は、それにあわせて報告者数をある程度限定することが確認された。
→また、予約可能な教室数の関係から、例年とは異なり、今回は1人1報告に限定することが提案され、承認された。CFPに明記することが確認された。
 - 懇親会の会場については西校舎の生協食堂が候補に挙げられた。十分な広さがあることから、6月1日の18時より仮予約を行った。
 - 今後の日程については下記のように進行する。
 - 9月20日 日程、開催校の告知 Call for Papers 開始
 - 10月中旬 テーマの設定 できれば基調講演者を確定したい。
 - 12月21日（金） 受付締め切り
→12月26日（水） 幹事会にてセレクションを行う。
- 2019年
- 1月中旬 アクセプト可否通知
 - 3月上旬 プロジェクトワークスの締め切り
 - 4月上旬 ポスター作成完了
→逆算してポスター作成者を決定する。

- 前期幹事会の申し送り事項に、当日のキャンセル対策があった。この点については、3月末に発表登録料・参加費の納付締切を設け、それ以降はパンフレット等に情報を掲載しないことにする。
→事前納付を可能な限り義務づけることが確認された。
- 現段階での大会の体制案は下記の通りだが、若手をもう少し増やしていく予定。
CT 大会事務局：毛利、辛島、川端、会計担当：村田、藤田
慶応：塩原、岡原、近森
学会対応：田中、近藤
- 大会テーマ案については、例年開催校実行委員の方々に作成いただいている。慶應側に、昨年度までのテーマ案例を共有し、テーマ案をいくつか提示いただくよう依頼することになった。